

女性)

「コミュニケーションの一手段であるメールが、逆に直接的なコミュニケーションを阻害していると言えるのかもしれない。また、場合によってはメールのやりとりでかえって精神的な距離が遠くなるような結果も考えられます。」

「相手の状況を考えてあげることが大切だと思います」(30代女性)

「コミュニケーション手段が多くあり、思い立ったらすぐ連絡が取れる、またはメールで意志が伝えられる便利な時代になっている一方で、時間を置いて冷静に気持ちを整理して伝えるとか、相手が今どうしているのか、気持ちを思いやるワンテンポを失いつつあるような気がしています。国語や道徳を大切にしたいですね」(40代男性)

## メールとのつきあい方

善かれ悪しかれ私達の生活に根付きつつあるメール。せっかくの便利な道具、上手につきあっていたいものです。

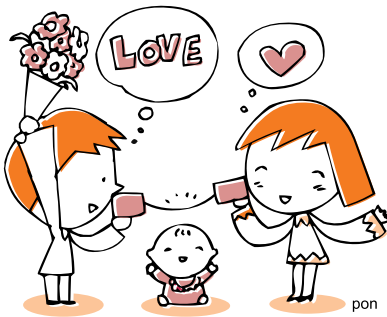
「直接言いにくいことが素直に言える反面、モラルのないことができるのも確かです。コミュニケーション

手段が増えたことで、選択肢があるので、その場によって使い分けて、有効活用していくべきだと思います」

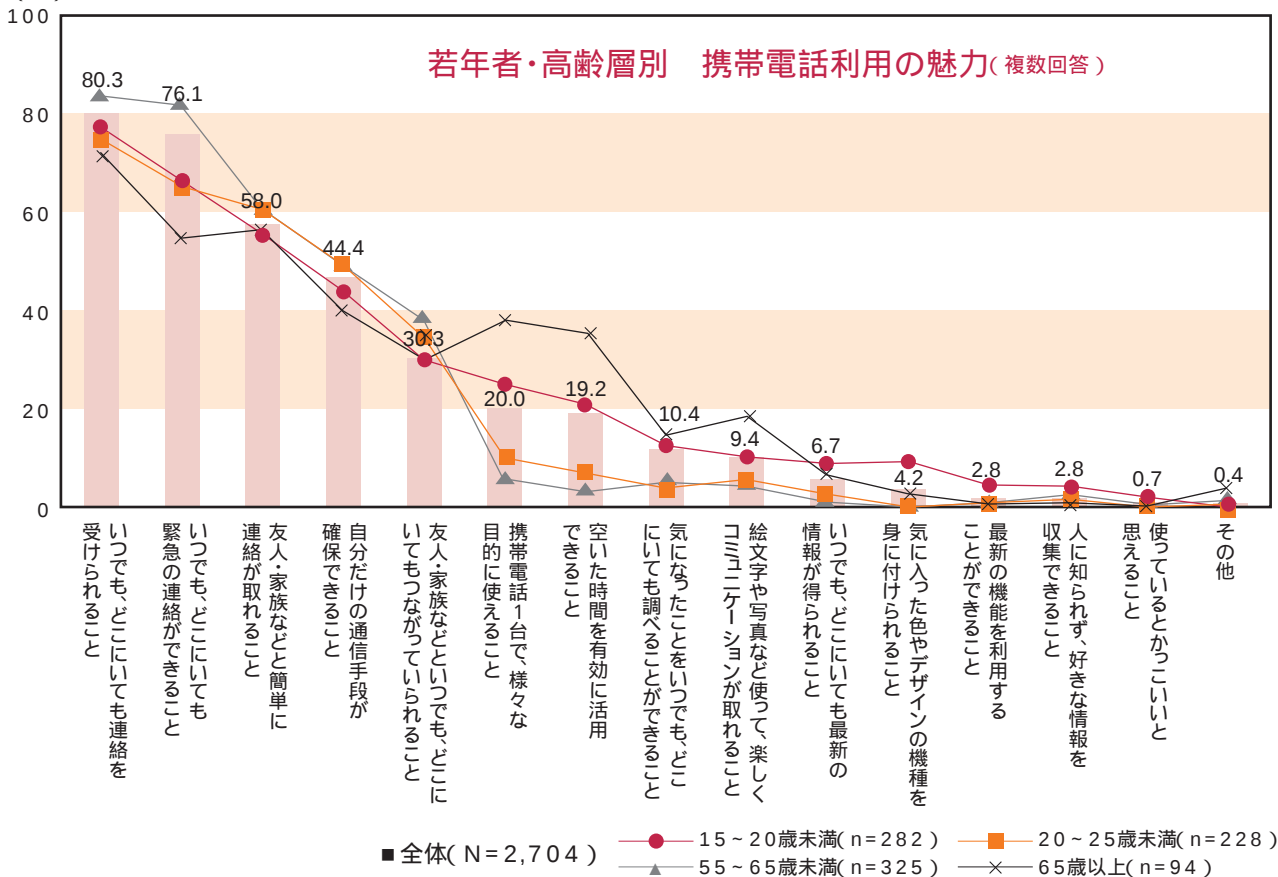
(10代女性)

「コミュニケーションの『道具』については、近代において発展があると感じます。私も実際に、それが存在しなかった生活を思い返すことが難しいほど、メールに依存しています。けれども、コミュニケーションの『目的』、すなわち他者との意思の疎通・共通理解の確立といったものは、時代・年代を超えて普遍的であるような気がします。道具がいかに発展しようとも、結局は、顔を見て、会って話す、という古典的な方法が、その目的を最も満足のいくように達成してくれるように思います」

(30代女性)



( % )



資料出所:「平成17年度一般向けモバイル利用調査」モバイル社会白書2006(モバイル社会研究所)より